

伊勢崎ロータリークラブ  
「県立みらい共創中学校（夜間中学校）支援プロジェクト」寄贈式報告書

日 時：2024年3月27日
場 所：県立みらい共創中学校
担当委員会：地域社会奉仕委員会 委員長：五十嵐秀行
報告者：地域社会奉仕委員会 副委員長：下田 仁
寄贈品：アクセサリーホワイトボード 6基

かねてから準備してきました、当伊勢崎ロータリークラブによる地域社会奉仕事業「県立みらい共創中学校（夜間中学校）支援プロジェクト」の支援品の寄贈式が開催され、当クラブからは原会長、加藤幹事をはじめ、全19名（原敬、小此木正博、加藤学、岸慈音、高橋郁夫、五十嵐秀行、下田仁、大和勲、安部良憲、久保貴則、峯岸則幸、久保木雅彦、山崎由紀雄、臂友幸、宮澤秀利、新井龍一、松島郁夫、笈川貴士、内山陽介）のメンバーが参加しました。

当日は10:30に現地集合の上、まずは施設の内覧をさせていただきました。

教育委員会義務教育課夜間中学準備係の片野主任にご同行いただき、各室やスペース、その利用のし方について、皆で移動しながらご説明をお聞きしました。

以下、要約です。

- ・ 夜間中学校は、「オープンスクール」の教室スタイルを採用しており、従来のように壁で囲われた教室とせず、移動可能な家具で仕切ることで、多様な使い方の出来るフレキシブルな学校空間となっている。
- ・ 一方、個別指導教室は壁で囲われた室になっており、少人数での授業体系に対応する。例えば、外国籍の生徒のなかでも日本語にまだ自信のない生徒を集め、日本語の授業を行ったり、「個」と「全体」とを分け、その状況に合わせた教育スタイルが可能である。
- ・ 教室は壁面自体がホワイトボードとなっており、多様な授業形態に対応するとともに、電子黒板も用意され、生徒に1台ずつ支給されるノートPCと連動した授業もできる。
- ・ コモンスペースと呼ばれるオープンスペースでは、2つを組み合わせると1つの大きなテーブルとして使用できる折畳み式デスクを使い、生徒が食事や休憩、談話など様々なコミュニケーションの場として利用を促すような備え、スペースが用意されている。

生徒たちがどのような環境で学び、学校生活を送るのかを知ることは、夜間中学校の存在、意義についてより理解を深めることに繋がりました。

内覧会の後、11時より寄贈式が開始され、県教育委員会からは平田教育長、栗本教育次長、春田義務教育課長、飯島室長（校長）にご出席いただきました。

当日参加の当クラブメンバーの紹介をさせていただき（この際に、山崎由紀雄さんのお名前が漏れていました。大変失礼しました。）、続いて原会長が「県内初の夜間中学校が伊勢崎の地に誕生するにあたり、ぜひお役に立ちたいという思いで、支援プロジェクトの立ち上げを決意しました」と寄付者挨拶を述べました。

目録贈呈と感謝状の授与を受け、教育長から受納者挨拶としてお言葉を頂戴しました。

会場となったコモンスペースには、寄贈品の「アクセサリーホワイトボード」が展示されていましたが、それら実物を前に、「このホワイトボードは掲示板として様々な情報を多言語で書き込み、また移動も容易で、パーティションとして利用することもできる。大変に便利で、この空間に即したとてもありがたい寄

贈品です。」と大変好感を持って、語ってくださいました。また、「伊勢崎ロータリークラブ」の寄贈ロゴが貼ってあることもとても重要であり、それは生徒たちが、「自分たちはこのような地域の人々に支えられている」ということをいつでも認識できるからであるとお話されたことが印象的でした。

校名である「みらい共創」には群馬県の「みらい」を「共」に「創り」上げていくという意味があります。ここの卒業生たちが、群馬県の多文化共生社会を担う人材になってくれることを願いながら、引き続き、伊勢崎ロータリークラブとして、支援を行っていききたいと、メンバー一同が強く思ったはずです。

寄贈式に参加いただいた皆様におかれましては、例会前のあわただしい中、ご参列いただき、ありがとうございました。



全員での記念撮影



原会長から平田教育長へ 目録贈呈



内覧会風景 フリーアドレスの職員室



寄贈式全体風景 コモンスペースにて



群馬テレビ 24/3/27



上毛新聞 24/3/28



東京新聞 24/3/30